

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 14 日現在

機関番号：34313

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370054

研究課題名(和文) 未翻刻仏教文献に基づく東アジア仏教の基礎的研究

研究課題名(英文) Basic research of East Asian Buddhism based on newly found materials

研究代表者

師 茂樹 (Moro, Shigeki)

花園大学・文学部・教授

研究者番号：70351294

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究においては、聖語蔵に収録されていた沙門宗『因明正理門論注』・崇俊『法華決釈記』・『法華略讃嘆』・『法華経二十八品略釈』巻上・『金剛般若経疏』、佛教大学図書館蔵『大智度論略鈔』、国立歴史民俗博物館蔵『唯識比量』(水木家資料)など、従来知られていなかった未翻刻文献を複数発見し、その翻刻デジタルテキストと校訂版を作成することができた。これらの文献には多くの逸文が含まれ、東アジア仏教の解明に資することが期待される。いくつかの文献については学会等で発表し、その重要性が認知されている。近日中にデジタルテキストと校訂版を公開する予定である。

研究成果の概要(英文)：In this research project, we found some new materials expected to be used for East Asian Buddhist studies: a Japanese commentary of Niyayamukha written by Shamon Shu, Chongjun's supercommentary of the Lotus sutra, and unknown commentaries of the Lotus sutra and Diamond sutra found in Shogozo manuscripts, a new commentary of Dazhidulun preserved by Bukkyo University Library, a Q&A-style work of Yuishiki hiryo (the proof of consciousness-only) which is a collection of Natinal Museum of Japanese History. These materials have many fragments of lost writings. Their digital texts and critical editions will be published in the near future.

研究分野：仏教学

キーワード：未翻刻文献 文献学 N-gram 因明正理門論 法華経 金剛般若経 大智度論

1. 研究開始当初の背景

東アジア仏教研究は従来、『大正新脩大蔵経』や『卍続蔵経』など、第二次世界大戦前に編纂された叢書(大蔵経)を主たる研究基盤として進展してきた。これらの叢書は、ヨーロッパから輸入されたインド学に加えて、明治期の仏教界のなかで形成された問題意識や方法論に強く規定されたものであるが、大正新脩大蔵経テキストデータベース(SAT)などのデータベースが公開され、デジタルテキストとして利用可能になったことでますます利用されるようになり、その規定が強化されている。

一方、東アジア仏教研究史においては、敦煌仏教文献などの新発見資料(蔵外仏教文献)が発展の大きな要因の一つであった。現在でもたとえば、国際仏教学大学院大学を中心として「七寺一切経」や「金剛寺一切経」などの日本古写経の研究・公開が進んでいるが、そのなかには失われたと考えられていた文献、あるいは従来『大正新脩大蔵経』などに収録されていた文献であっても内容が異なるものなどがあり、研究の見直しのための大きなきっかけとなっている(研究代表者・師は、日本古写経を用いた『続高僧伝』玄奘伝の再検討を行ってきた。図書)。

加えて、京都大学人文科学研究所による真諦三蔵に関する研究(研究分担者・石井が参加)のように、既存の文献や新発見資料に残されている逸文を用いて、逸書を復元的に研究する方法も近年進んでいた。

しかし、これらの新発見資料や逸文を用いた研究は、多くの場合、個々の研究者によって文献単位で行われることが多く、校訂テキストが叢書のような形でまとめられていることは少ない。また、デジタルテキストが十分に用意されているわけでもない。したがって、で述べた『大正新脩大蔵経』などを中心とした研究方法に対する影響力は、相対的に小さくなっているとも言える。

2. 研究の目的

本研究では、未だ学界に紹介されていない未翻刻文献を信頼できる方法で翻刻・校訂するとともに、検索可能なデジタルテキストとして広く提供することを通じて、『大正新脩大蔵経』などを中心とした漢字仏教文献の世界を外から解体するとともに、東アジア仏教研究の再構築を目指すことを大きな目的とする。

3. 研究の方法

本研究では、研究代表者による統括のもと、目録(メタデータ)構築班、翻刻・文献批判班、文献分析班の三班体制により、以下の手順で研究を推進した。

未翻刻漢字仏教文献についての目録(メタデータ)を構築し、それに基づいて翻刻すべき文献を選定する。各機関・寺院等に保存されている文献で複写可能なものについては、アルバイト等を用いて調査、複写する。

収集された未翻刻資料について、アルバイトや外部協力者の協力を得ながら、できるかぎり効率的かつ高い質で翻刻を行い、その結果をデジタルテキストとして公開するとともに、紙媒体でも発表する。デジタルテキストは、時間やコスト等の問題に加え、次の 人文情報学的な研究において便利であることから、原則としてプレーンテキストの形で構築、マークアップなどは最低限にとどめる。

翻刻した文献について基礎研究を行うとともに、構築したデジタルデータを用いて、文献間の引用・被引用関係などの基礎的な比較研究を、人文情報学的手法を用いて行う。

4. 研究成果

上の①～③について、以下のような成果を得ることができた。ただし、当初計画していたデジタルデータと紙媒体による翻刻テキストの公開については、期間中に間に合わせることができなかった。

聖語蔵経巻データベース(丸善) 東大寺図書館、佛教大学図書館、龍谷大学図書館、駒澤大学図書館、国立国会図書館などを中心に未翻刻文献について調査を行い、因明関係文献を中心にメタデータのデータベースを構築した(その一部については、MediaWiki によって再編中で、近くインターネットで公開予定) 資料へのアクセスの容易さなどから、聖語蔵経巻データベースに収録された未翻刻文献を中心に作業を行う方針を定めた。

2014年3月には、未翻刻文献の所在や研究方法に関する研究集会を開催し、岡本一平氏の講演「東アジア仏教研究の未来と凝然の未翻刻文献」とともに、参加者による討論・情報交換を行なった。

聖語蔵経巻データベースに収録されていた沙門宗『因明正理門論注』・『法華決釈記』・『法華略讚嘆』・『法華経二十八品略釈』巻上・『金剛般若経疏』のほか、証真『大智度論略鈔』(佛教大学図書館) 水木家資料『唯識比量』(国立歴史民俗博物館蔵) 江田文庫本『仏説地心陀羅尼經』

(駒澤大学図書館蔵)などの翻刻を行ない、『金剛般若経疏』『大智度論略鈔』『仏説地心陀羅尼経』については校訂版(所謂 Diploma edition と Critical edition)の作成を完了した。他の文献については、校訂作業が継続している。校訂テキストが揃い次第、デジタルデータを公開予定である。

であげた文献のうち、『因明正理門論注』『法華決訳記』『仏説地心陀羅尼経』に関しては、概要等について口頭発表や論文で発表した(雑誌論文・学会発表)。また『唯識比量』に関しては、関連する研究を行なった(雑誌論文・学会発表・図書)。

このなか、特に沙門宗『因明正理門論注』については、江戸時代に書かれたものを除くと前近代の東アジアで書かれた『因明正理門論』の注釈書としては2例目となるものであることから、発表直後から大きく注目された。本文献は、『因明正理門論』の仏教論理学史上における重要性に加え、円測・定實の因明文献の逸文を多数含み、東アジアでは珍しい過類(jāti)についての注釈をしていることから、インド(仏教)論理学研究者から注目され、国際的にも注目を集めつつある。現在、仏教論理学(因明)に関する他のプロジェクトと連携して、本文献の現代語訳作業も進展している。

加えて、研究代表者が専門とする東アジア仏教論理学(因明)研究については、現代の文献観・方法論等を規定していると考えられる明治以降の因明研究について調査を進め、研究史的な背景についても検討した(雑誌論文、学会発表)。その他、『法華決訳記』については、従来、崇俊『法華決訳記』(全八巻中巻一・二のみ現存)として知られていた文献の一部(巻四)であることが明らかとなった。『金剛般若経疏』は紀国慧浄の疏を模範にして書かれた唐代の文献と推定される。これまで知られていなかった光宅師、北遠、北光からの逸文を含むため、貴重なものであると考えられる。証真『大智度論略鈔』は、小寺文頼氏によって重要性が指摘されていたものの(「宝地房証真の大智度論略抄について」『龍谷大学仏教文化研究所紀要』9、1970)これまで研究がなかった文献である。慧影・靈見・僧侃らの『大智度論』注釈書からの引用が多く見られ、南北朝から隋の仏教を知る資料として役立つことが期待される。

これらの文献だけを見ても、未翻刻文献や逸文の研究が東アジア仏教研究に大きな意義を持つことが示せたのではないかと思う。他の文献については今後の検討を待たねばならないが、同様に今後の東

アジア仏教研究に資するものと期待される。

人文情報学的な研究としては、研究分担者・石井のアイデアをもとに研究代表者・師が作成・公開してきた N-gram モデルによる文献比較分析(NGSM)が、本研究では中心となるが、そのためのツールが古いプラットフォームを前提としていたので、統計処理システム R のために書きなおし、インターネットで公開した(雑誌論文)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 5 件)

師茂樹, Xuanzang's proof of idealism (眞唯識量) and Śīlabhadra's Teaching, 2013 年第一屆慈宗國際學術論壇論文集, 査読無, 2013, 167-175.

石井公成, 盲僧の読誦經典の源流: 江田文庫本『仏説地心陀羅尼経』訳注(上), 駒澤大学仏教文学研究, 査読無, 18, 2015, 91-120.

師茂樹, Kira Kōyō's Inmyō Interpretations and Western Logic, 印度學佛教學研究, 査読有, 63(3), 2015, 1126-1132.

師茂樹, 聖語蔵所収の沙門宗『因明正理門論注』について, 査読有, 東アジア仏教研究, 13, 2015, 135-150.

師茂樹, R による NGSM ツールの開発と課題, 査読有, 漢字文献情報処理研究, 16, 2015, 26-33.

[学会発表](計 6 件)

師茂樹, Xuanzang's proof of idealism (眞唯識量) and Śīlabhadra's Teaching, 第一屆慈宗國際學術論壇, 2013, 香港理工大学.

師茂樹, Gomyō's Interpretation on the proof of idealism (*vijñapti-mātratā*), Logic and culture: Theories of logic in Buddhist, Muslim and Aristotelian scholastics, 2013, Lumbini International Research Institute.

師茂樹, 雲英晃耀の因明学, 日本印度学仏教学会第 65 回学術大会, 2014, 武蔵野大学.

師茂樹, 聖語蔵所収の沙門宗『因明正理門論注』について, 東アジア仏教研究会第 13 回年次大会, 2014, 駒澤大学.

師茂樹, Jayasena's proof of the authenticity of Mahāyāna, and the discussions in East

Asia, Yogācāra Buddhism in Context: Approaches to Yogācāra Philosophy throughout Ages and Cultures, 2015, Ludwig-Maximilians-Universität München.

師茂樹, 聖語蔵所収『法華決釈記』巻四について, 日本印度学仏教学会第66回学術大会, 2015, 高野山大学.

〔図書〕(計 2 件)

師茂樹, ナカニシヤ出版, 論理と歴史—東アジア仏教論理学の形成と展開, 2015, 480 頁.

Gregor Paul 編, 師茂樹他(共著), Lumbini International Research Institute, *Logic in Buddhist Scholasticism: From Philosophical, Philological, Historical and Comparative Perspectives*, 2015, 351-370.

〔その他〕

ホームページ等

<http://moromoro.jp>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

師 茂樹 (MORO, Shigeki)

花園大学・文学部・教授

研究者番号: 70351294

(2) 研究分担者

吉田 叡禮 (YOSHIDA, Eirei)

花園大学・文学部・教授

研究者番号: 60507135

石井 公成 (ISHII, Kosei)

駒澤大学・仏教学部・教授

研究者番号: 10176133

(3) 連携研究者

なし